令和６年度
鳥取県公立学校教員採用候補者選考試験

［養護教諭］

試験時間：６０分

注　意　事　項

１　試験開始の合図があるまでは、この問題冊子の中を見ないこと。

２　解答用紙（マークシート）の、「氏名」「試験区分・教科（科目等）」「受験番号」欄を記入し、さらに受験番号の下のマーク欄にマークすること。正しくマークされていない場合は、採点できないことがある。

（例）養護教諭　４２００番　大山　太郎さんの場合
「大山　太郎」「養護教諭」「４２００」

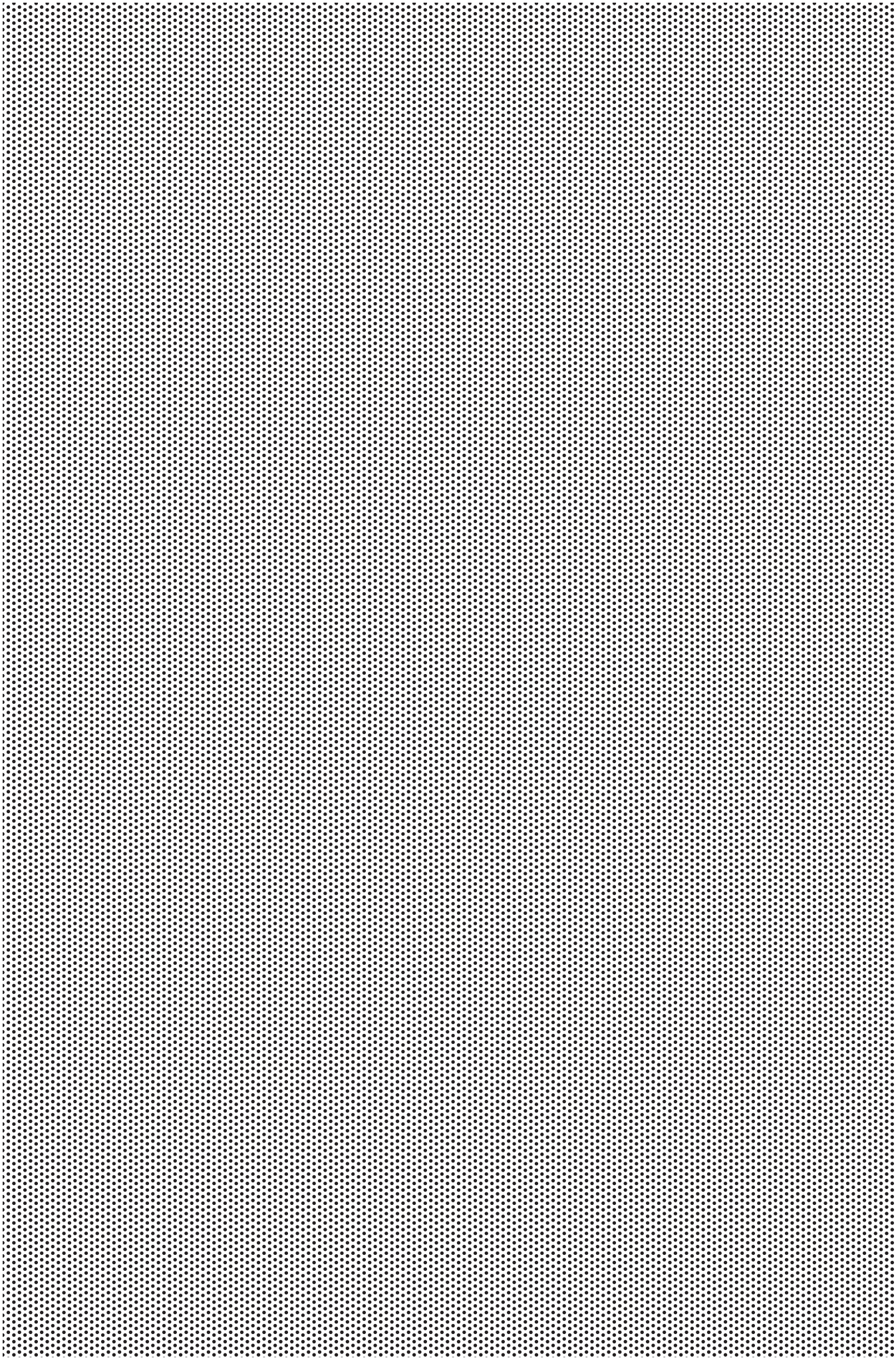
３　解答は、解答用紙の解答番号１～45の解答欄にマークすること。

４　問題冊子は全部で３５ページ。

５　黒鉛筆又はシャープペンシル（ＨＢ又はＢに限る。）を使用してマークすること。

６　試験中に問題の印刷の不鮮明なところや、ページの落丁、乱丁及び解答用紙の汚れ等に気づいた場合は、手を挙げて試験官に知らせること。

※　本専門試験における「障がい」表記については、法令及び条例並びに鳥取県以外の団体等が定めた通知等及び新たに作成又は発出する前の公文書等の名称を用いる場合、医学用語等の専門用語として用いる場合、著作物を引用する場合は「障害」と表記する。



第１問　次の文章は、学校教育法第81条の条文である。（　①　）～（　③　）にあてはまる語句の組み合わせとして正しいものを、下の１～５の中から一つ選びなさい。

１

第81条　幼稚園、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校及び中等教育学校においては、次項各号のいずれかに該当する幼児、児童及び生徒その他教育上特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対し、文部科学大臣の定めるところにより、障害による学習上又は生活上の困難を克服するための教育を行うものとする。

②　小学校、中学校、義務教育学校、高等学校及び中等教育学校には、次の各号のいずれかに該当する児童及び生徒のために、特別支援学級を置くことができる。

一　（　①　）

二　（　②　）

三　身体虚弱者

四　弱視者

五　難聴者

六　その他障害のある者で、特別支援学級において教育を行うことが適当なもの

③　前項に規定する学校においては、疾病により療養中の児童及び生徒に対して、特別支援学級を設け、又は（　③　）、教育を行うことができる。

1	①	知的障害者	②	学習障害者	③　病院内で
2	①	知的障害者	②	学習障害者	③　教員を派遣して
3	①	知的障害者	②	肢体不自由者	③　教員を派遣して
4	①	発達障害者	②	肢体不自由者	③　教員を派遣して
5	①	発達障害者	②	学習障害者	③　病院内で

第２問　次の文章は、「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して」（令和３年１月　中央教育審議会答申）の「第Ⅰ部　総論　１．急激に変化する時代の中で育むべき資質・能力」の一部である。（　①　）～（　③　）にあてはまる語句の組み合わせとして正しいものを、下の１～５の中から一つ選びなさい。［　2　］

> 人工知能（AI)、ビッグデータ、Internet of Things（IoT)、ロボティクス等の先端技術が高度化してあらゆる産業や社会生活に取り入れられた（　①　）時代が到来しつつあり、社会の在り方そのものがこれまでとは「非連続」と言えるほど劇的に変わる状況が生じつつある。
> ～中略～
> このように急激に変化する時代の中で、我が国の学校教育には、一人一人の児童生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を（　②　）として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、（　③　）社会の創り手となることができるよう、その資質・能力を育成することが求められている。

1	①	Society 5.0	②	一人の人間	③　主体的な
2	①	Society 5.0	②	価値のある存在	③　持続可能な
3	①	Society 5.0	②	価値のある存在	③　主体的な
4	①	第五次産業革命	②	価値のある存在	③　持続可能な
5	①	第五次産業革命	②	一人の人間	③　主体的な

第３問　次の問１～問３の各問いに答えなさい。

問１　次の文章は、小学校学習指導要領（平成29年３月告示）の「第２章　各教科　第９節　体育　第２　各学年の目標及び内容〔第５学年及び第６学年〕　２　内容　G　保健」の一部である。（　①　）～（　④　）にあてはまる語句の組み合わせとして正しいものを、下の１～５の中から一つ選びなさい。なお、同じ番号の（　　）には同じ語句が入る。［　3　］

G　保健
(1)　心の健康について、課題を見付け、その解決を目指した活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
ア　心の発達及び不安や悩みへの対処について理解するとともに、簡単な対処をすること。
(ｱ)　心は、いろいろな（　①　）経験を通して、年齢に伴って発達すること。
(ｲ)　心と体には、密接な関係があること。
(ｳ)　不安や悩みへの対処には、大人や友達に相談する、仲間と遊ぶ、（　②　）をするなどいろいろな方法があること。
イ　心の健康について、課題を見付け、その解決に向けて思考し判断するとともに、それらを（　③　）すること。
(2)　けがの防止について、課題を見付け、その解決を目指した活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
ア　けがの防止に関する次の事項を理解するとともに、けがなどの簡単な手当をすること。
(ｱ)　（　④　）や身の回りの（　①　）の危険が原因となって起こるけがの防止には、周囲の危険に気付くこと、的確な判断の下に安全に行動すること、環境を安全に整えることが必要であること。
(ｲ)　けがなどの簡単な手当は、速やかに行う必要があること。
イ　けがを防止するために、危険の予測や回避の方法を考え、それらを（　③　）すること。

1　①　学習　②　運動　③　実践　④　災害
2　①　学習　②　食事　③　実践　④　交通事故
3　①　生活　②　運動　③　実践　④　交通事故
4　①　生活　②　運動　③　表現　④　交通事故
5　①　生活　②　食事　③　表現　④　災害

問２　次の文章は、中学校学習指導要領（平成29年３月告示）の「第２章　各教科第７節　保健体育〔保健分野〕　２　内容」の一部である。（　①　）～（　④　）にあてはまる語句の組み合わせとして正しいものを、下の１～５の中から一つ選びなさい。［　4　］

> (1)　略
> (2)　心身の機能の発達と心の健康について、課題を発見し、その解決を目指した活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
> ア　心身の機能の発達と心の健康について理解を深めるとともに、ストレスへの対処をすること。
> (ｱ)　身体には、多くの（　①　）が発育し、それに伴い、様々な機能が発達する時期があること。また、発育・発達の時期やその程度には、（　②　）があること。
> (ｲ)　思春期には、（　③　）によって生殖に関わる機能が成熟すること。また、成熟に伴う変化に対応した適切な行動が必要となること。
> (ｳ)　知的機能、（　④　）、社会性などの精神機能は、生活経験などの影響を受けて発達すること。また、思春期においては、自己の認識が深まり、自己形成がなされること。

1	①	技能	②	個人差	③	適切な運動	④	情意機能
2	①	器官	②	個人差	③	内分泌の働き	④	情意機能
3	①	技能	②	環境要因	③	適切な運動	④	欲求
4	①	器官	②	個人差	③	内分泌の働き	④	欲求
5	①	器官	②	環境要因	③	適切な運動	④	情意機能

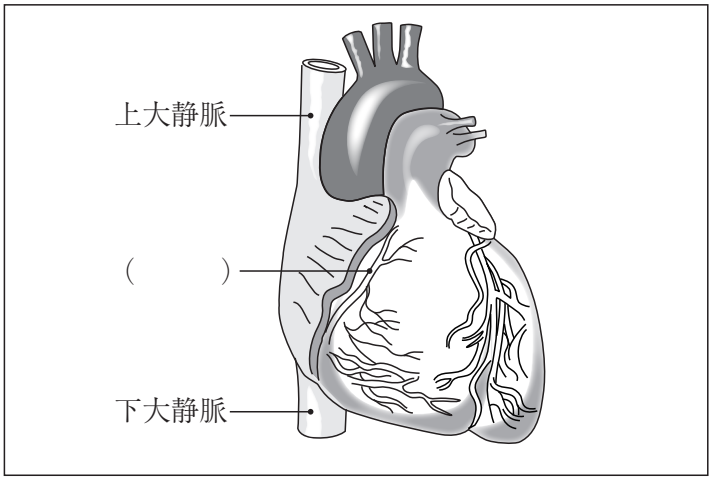
問３　次の文章は、高等学校学習指導要領（平成30年３月告示）「第２章　各学科に共通する各教科　第６節　保健体育　第２款　各科目　第２　保健　１　目標」の一部である。（　①　）～（　④　）にあてはまる語句の組み合わせとして正しいものを、下の１～５の中から一つ選びなさい。 5

> （　①　）を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を次のとおり育成する。
> (1)　個人及び（　②　）における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。
> (2)　健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて（　③　）力を養う。
> (3)　生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える（　④　）を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

1　①　健康の考え方　②　社会生活　③　意思決定　④　安全な社会づくり
2　①　保健の見方・考え方　②　社会生活　③　意思決定　④　環境づくり
3　①　健康の考え方　②　国民　③　意思決定　④　環境づくり
4　①　健康の考え方　②　国民　③　他者に伝える　④　安全な社会づくり
5　①　保健の見方・考え方　②　社会生活　③　他者に伝える　④　環境づくり

第４問　次の問１、問２の各問いに答えなさい。

問１　次の図は、心臓を表したものである。図中の（　　）にあてはまる語句を、下の１～５の中から一つ選びなさい。 6



1　大動脈
2　肺動脈
3　冠状動脈
4　頸動脈
5　大腿動脈

問２　次の文章は、女性の体と思春期について述べたものである。下線部①～⑤について、正しいものを○、誤っているものを×としたとき、組み合わせとして正しいものを、下の１～５の中から一つ選びなさい。 7

（ア）　思春期後半に向かうにつれて、排卵と月経が一定のリズムをもつようになり、多くの人は①性周期が安定する。
（イ）　子宮内膜は、②排卵後、③黄体ホルモンの影響でしだいに厚くなり充血する。
（ウ）　④月経後、⑤卵胞ホルモンの影響で基礎体温が上がる。

1	①	○	②	×	③	×	④	×	⑤	×
2	①	×	②	×	③	○	④	×	⑤	○
3	①	×	②	○	③	×	④	○	⑤	×
4	①	○	②	○	③	○	④	○	⑤	○
5	①	○	②	○	③	○	④	×	⑤	○

第５問　次の問１～問20の各問いに答えなさい。

問１　次の各文章は、熱傷に関する記述である。**誤っているもの**を、１～５の中から一つ選びなさい。 8

1　２度の熱傷の障害組織は、真皮層である。
2　３度の熱傷では、痛みや皮膚の感覚が分からなくなる。
3　熱傷部が衣類で覆われている場合は、脱がせて急いで冷やす。
4　１度、２度の熱傷で範囲が狭いときは、冷たい水や水道水で痛みが取れるまで冷やす。２度、３度の場合、冷たい水、水道水で冷やし、その後濡れたタオルなどで冷やす。
5　熱傷に対する迅速かつ適切な冷却は、痛みを和らげ、患部の腫れを抑える。また、熱傷が深くなることを防ぎ、感染を予防して、手術の必要性を減らす効果がある。

問２　次の文章は、止血に関する記述の一部である。下線部①～⑤について、正しいものを○、誤っているものを×としたとき、組み合わせとして正しいものを、下の１～５の中から一つ選びなさい。 9

・血管が破れると破れた血管は収縮し、血流を抑え、出血量を減らす。同時に、破れた場所に血液中の血小板が集まり、くっつく（粘着・凝集）ことで①血栓を形成する。
・②止血帯止血法とは、出血している傷口をガーゼやハンカチなどで直接強く押さえて、しばらく圧迫することで止血を行う方法のことをいう。
・傷口に異物があるときは③それを避けてその横から圧迫する。
・圧迫にもかかわらず、ガーゼなどが血液で濡れてくる場合には、圧迫部位が出血部位から外れているか、または圧迫する力が弱いなどが考えられるので、出血部位を確実に押さえているか確認する。④動脈からの出血では強い圧迫が必要となるので、その場合は⑤体重をかけて押さえる。

1	①	×	②	×	③	○	④	○	⑤	×
2	①	○	②	×	③	○	④	○	⑤	○
3	①	×	②	○	③	×	④	×	⑤	○
4	①	○	②	○	③	×	④	×	⑤	○
5	①	×	②	○	③	×	④	○	⑤	×

問３　次の各文章は、アナフィラキシーの病型についての記述である。**誤っているもの**を、１～５の中から一つ選びなさい。 10

１　食物によるアナフィラキシー

即時型は、最も典型的な食物アレルギーの病型であり、原因食物を食べて２時間以内に症状が出現し、その症状は軽い症状からアナフィラキシーショックに進行するものまで様々である。

２　食物依存性運動誘発アナフィラキシー

特定の食物を食べた後に運動することによってアナフィラキシーが誘発される。原因食物の摂取と運動の組み合わせで発症する。

３　運動誘発アナフィラキシー

特定もしくは不特定の運動を行うことで誘発されるアナフィラキシー症状である。食事との関連はまれである。

４　昆虫

蚊やハチ、ゴキブリ、ガ、チョウなどがアレルギー原因となるが、アナフィラキシーの原因になりやすいのはチョウによるものである。８～９月の発症が多い。

５　医薬品

抗生物質や非ステロイド系の抗炎症薬、抗てんかん薬などが原因となる。

問４　次の各文章は、緊急性の高いアレルギー症状への対応に関する記述である。①～⑤の対応について、正しいものの組み合わせを、下の１～５の中から一つ選びなさい。 11

① ただちにエピペンを使用する。
② 救急車を要請する。
③ 反応がなく呼吸がなければ、心肺蘇生を行う。ただし、アレルギー症状を悪化させる恐れがあるので、ＡＥＤは使用しない。
④ 歩ける場合でも、その場で立たせたり、保健室まで歩かせたりしない。
⑤ ぐったりしている場合は、血圧が低下している可能性がある為、あお向けで、頭を高くし、安静を保つ。

1　①、②、④
2　①、③、⑤
3　②、④、⑤
4　②、③、④
5　①、②、③

問５　次の文章は、学校保健安全法施行規則第10条の条文である。下線部①～⑤について、正しいものを○、誤っているものを×としたとき、組み合わせとして正しいものを、下の１～５の中から一つ選びなさい。 12

（臨時の健康診断）
第10条　法第13条第二項の健康診断は、次に掲げるような場合で必要があるときに、必要な検査の項目について行うものとする。
一　感染症又は①食中毒の発生したとき。
二　②風水害等により感染症の発生のおそれのあるとき。
三　夏季における③水泳日の直前又は直後
四　結核、④流行性角結膜炎その他の疾病の有無について検査を行う必要のあるとき。
五　⑤転入のとき。

1　①　×　②　×　③　○　④　○　⑤　○
2　①　○　②　○　③　×　④　×　⑤　×
3　①　○　②　○　③　○　④　×　⑤　×
4　①　○　②　×　③　×　④　○　⑤　×
5　①　×　②　×　③　○　④　×　⑤　○

問６　次の文章は、学校保健安全法施行規則第７条における健康診断の方法及び技術的基準に関する記述の一部である。下線部①～⑤について、正しいものを○、誤っているものを×としたとき、組み合わせとして正しいものを、下の１～５の中から一つ選びなさい。 13

・身長は、靴下等を脱ぎ、①両膝を密接し、背、臀部及びかかとを身長計の尺柱に接して直立し、両上肢を体側に垂れ、頭部を正位に保たせて測定する。
・体重は、衣服を脱ぎ、体重計のはかり台の中央に静止させて測定する。ただし、衣服を着たまま測定したときは、その衣服の重量を②控除する。
・四肢の状態は、四肢の形態及び発育並びに③肩関節の機能の状態に注意する。
・尿は、尿中の④蛋白、糖等について⑤煮沸法により検査する。ただし、幼稚園においては、糖の検査を除くことができる。

1	①	×	②	×	③	○	④	○	⑤	○
2	①	×	②	○	③	×	④	×	⑤	×
3	①	×	②	○	③	×	④	○	⑤	×
4	①	○	②	×	③	○	④	○	⑤	×
5	①	○	②	×	③	○	④	×	⑤	○

問７　次の文章は、児童生徒等の健康診断における耳鼻咽喉疾患の有無の検査に関する記述の一部である。下線部①～⑤について、正しいものを○、誤っているものを×としたとき、組み合わせとして正しいものを、下の１～５の中から一つ選びなさい。 14

・額帯鏡、ヘッドライト、鼻鏡、耳鏡、①舌圧子、絵図版（音声言語診断用）、側燈、トレイ等を準備する。
・器具の消毒については、②薬液消毒が望ましい。
・検査には側燈あるいは③LED等の光源を使用するが、場所全体がある程度暗いことが望ましい。
・④被検査者の背部には暗幕をするなどして、外界からの光を遮る必要がある。
・小学校低学年の児童には、器具に対する恐怖心を与えないような配慮が必要である。そのため、検査の順序として⑤咽頭から始めるとスムーズにいくことが多い。

1	①	○	②	×	③	○	④	×	⑤	○
2	①	×	②	○	③	×	④	×	⑤	○
3	①	×	②	○	③	×	④	○	⑤	×
4	①	○	②	○	③	○	④	×	⑤	×
5	①	○	②	×	③	○	④	×	⑤	×

問８　次の文章は、児童生徒等の健康診断における心臓の疾患及び異常の有無の検査に関する記述の一部である。**誤っているもの**を、１～５の中から一つ選びなさい。 15

１　心電図検査は、小学校、中学校、高等学校各第２学年全員に義務付けられている。
２　心電図検査実施上の注意事項として、体育授業やスポーツ活動の直後の検査は避けること。
３　１次検診は、保健調査票、心臓検診調査票、川崎病調査票、学校医の診察所見、心電図の判定などにより判定を行う。
４　事後措置として学校では、学校生活管理指導表に基づいて生活管理や生活指導を行うため、家庭と連絡を取り、保護者や本人と話し合い、具体的な活動内容を確認する。
５　１次検診にて心室頻拍やＱＴ延長症候群など突然死につながる疾患が見つかった場合は、至急精密検査となる。

問９　次の文章は、学校保健安全法第９条の条文である。下線部①～⑤について、正しいものを○、誤っているものを×としたとき、組み合わせとして正しいものを、下の１～５の中から一つ選びなさい。 16

> 第９条
>
> 養護教諭その他の職員は、①心身の健康の保持増進を図るため、②健康診断又は児童生徒等の健康状態の日常的な観察により、③児童生徒等の心身の状況を把握し、健康上の問題があると認めるときは、遅滞なく、当該児童生徒等に対して必要な④勧告を行うとともに、必要に応じ、その保護者（学校教育法第16条に規定する保護者をいう。第24条及び第30条において同じ。）に対して必要な⑤助言を行うものとする。

1	①	×	②	×	③	○	④	×	⑤	○
2	①	×	②	○	③	×	④	×	⑤	○
3	①	×	②	○	③	×	④	○	⑤	×
4	①	○	②	×	③	○	④	×	⑤	×
5	①	○	②	×	③	○	④	×	⑤	○

問10　次の文章は、「子どもの心身の健康を守り、安全・安心を確保するために学校全体としての取組を進めるための方策について」（平成20年１月　中央教育審議会答申）の健康観察に関する記述の一部である。（　①　）～（　④　）にあてはまる語句の組み合わせとして正しいものを、下の１～５の中から一つ選びなさい。
17

> 健康観察は、学級担任、養護教諭などが子どもの体調不良や（　①　）などの日常的な心身の健康状態を把握することにより、感染症や（　②　）などの心身の変化について早期発見・早期対応を図るために行われるものである。また、子どもに（　③　）に興味・関心を持たせ、（　④　）の育成を図ることなどを目的として行われるものである。（後略）

1	①	けが	②	問題行動	③	自他の健康	④	資質・能力
2	①	欠席・遅刻	②	問題行動	③	心身の発達	④	資質・能力
3	①	欠席・遅刻	②	心の健康課題	③	自他の健康	④	自己管理能力
4	①	けが	②	心の健康課題	③	心身の発達	④	資質・能力
5	①	欠席・遅刻	②	問題行動	③	心身の発達	④	自己管理能力

問11　次の文章は、「学校保健の課題とその対応―養護教諭の職務等に関する調査結果から―令和２年度改訂」（令和３年３月　公益財団法人 日本学校保健会）の健康観察の留意点に関する記述の一部である。下線部①～⑤について、正しいものを○、誤っているものを×としたとき、組み合わせとして正しいものを、下の１～５の中から一つ選びなさい。 18

(1)　児童生徒等は、自分の気持ちを言葉でうまく表現できないこともあり、心の問題が①顔の表情や行動に現れたり、頭痛・腹痛などの身体症状となって現れたりすることもあるため、きめ細やかな観察が必要である。
(2)　友達関係や家庭環境などの心理社会的な問題ではなく、②脳の機能障害や心身症などの疾患が原因となっている場合がある。
(3)　「体に現れるサイン」・「③行動や態度に現れるサイン」・「④対人関係に現れるサイン」の３観点から、健康観察ができるようにする。
(4)　⑤ICT端末による健康観察を実施している学校は、情報の管理に留意する。

1	①	○	②	○	③	○	④	○	⑤	○
2	①	×	②	×	③	○	④	○	⑤	○
3	①	×	②	○	③	×	④	○	⑤	×
4	①	○	②	×	③	○	④	×	⑤	○
5	①	○	②	×	③	○	④	×	⑤	×

問12　次の文章は、「教職員のための子どもの健康観察の方法と問題への対応」（文部科学省）の特別支援学校における健康観察に関する記述の一部である。下線部①～⑤について、正しいものを○、誤っているものを×としたとき、組み合わせとして正しいものを、下の１～５の中から一つ選びなさい。 19

> 特別支援学校には先天的な内臓等の疾患があったり、①救急処置（経管栄養、吸引等）を必要とする子どもがいる。また、重度のてんかんや②パニック発作のある子どももいる。
>
> このような子どもの心身の状態を把握するには、③教職員による朝の健康観察は重要である。
>
> 特別支援学校における健康観察は、小学校・中学校等における健康観察項目のほかに④障害等の特性等を踏まえた項目を加え、⑤地域の実態に応じて作成することが重要である。その際、必要に応じて保護者から家庭での様子を聞くことも大切である。

1	①	×	②	○	③	○	④	○	⑤	×
2	①	×	②	○	③	×	④	○	⑤	×
3	①	×	②	○	③	×	④	×	⑤	○
4	①	○	②	×	③	○	④	×	⑤	○
5	①	○	②	×	③	○	④	×	⑤	×

問13　次の文章は、学校保健安全法施行規則第21条の条文である。（　①　）～（　④　）にあてはまる語句の組み合わせとして正しいものを、下の１～５の中から一つ選びなさい。 20

> 第21条　校長は、学校内において、感染症にかかつており、又はかかつている疑いがある児童生徒等を発見した場合において、（　①　）、学校医に（　②　）させ、法第19条の規定による出席停止の指示をするほか、消毒その他適当な処置をするものとする。
> ２　校長は、学校内に、感染症の（　③　）に汚染し、又は汚染した疑いがある物件があるときは、消毒その他適当な処置をするものとする。
> ３　学校においては、その附近において、第一種又は第二種の感染症が発生したときは、その状況により適当な（　④　）を行うものとする。

１	①	必要と認めるときは	②	診断	③	病原体	④ 予防処置
２	①	政令で定めるところにより	②	診断	③	病原体	④ 清潔方法
３	①	政令で定めるところにより	②	検査	③	病毒	④ 清潔方法
４	①	必要と認めるときは	②	診断	③	病毒	④ 清潔方法
５	①	必要と認めるときは	②	検査	③	病毒	④ 予防処置

問14　次の各文は、「学校において予防すべき感染症の解説」（平成30年３月　公益財団法人 日本学校保健会）の学校における感染症への対応についての記述の一部である。**誤っているもの**を、次の１～５の中から一つ選びなさい。 21

１　各感染症の出席停止の期間は、感染様式と疾患の特性を考慮して、人から人への感染力を有する程度に病原体が排出されている期間を基準としている。

２　感染症の拡大を防ぐためには、患者は、
・他人に容易に感染させる状態の期間は集団の場を避けるようにすること
・健康が回復するまで治療や休養の時間を確保すること
が必要である。

３　学校から特定の検査等の実施（例えば、インフルエンザ迅速診断検査やノロウイルス検査）を全てに一律に求める必要がある。

４　診断は、診察に当たった医師が身体症状及びその他の検査結果等を総合して、医学的知見に基づいて行われるものである。

５　児童生徒等及び保護者への当該感染症に対する指導を行い、症状があるのにも関わらず無理に登校させることなどがないように協力を得る。

問15　次の［　　］の中は、学校において予防すべき感染症の種類について、いくつか示したものである。この中で第二種の感染症で**ないもの**がいくつあるか、下の１～５の中から一つ選びなさい。［22］

インフルエンザ	百日咳	麻しん
流行性角結膜炎	コレラ	流行性耳下腺炎
風しん	腸管出血性大腸菌感染症	急性出血性結膜炎
水痘	咽頭結膜熱	ジフテリア
痘そう	髄膜炎菌性髄膜炎	

1　２つ
2　３つ
3　４つ
4　５つ
5　６つ

問16　次の文章は、「学校において予防すべき感染症の解説」（平成30年３月　公益財団法人 日本学校保健会）の結核についての記述の一部である。下線部①～⑤について、正しいものの組み合わせを、下の１～５の中から一つ選びなさい。
［23］

・結核菌が気道から肺に入って、肺に小さな初感染病巣ができれば初感染が成立したとされるが、①発病に至らない場合も多い。
・②粟粒結核では、初感染に引き続き、肺病変や肺門リンパ節腫脹がみられる。初感染病巣から気管・気管支を通って他の肺の部分に広がり、病巣が形成される。
・肺結核の症状は咳、③痰、微熱、倦怠感、進行すると、発熱、寝汗、血痰、呼吸困難など。
・潜伏期間は、２年以内、特に④６か月以内に多い。感染後、数十年後に症状が出現することもある。
・結核は⑤第一種の感染症である。

1　①、②、⑤
2　②、③、⑤
3　①、③、④
4　③、④
5　②、⑤

問17　次の文章は、学校保健安全法施行規則第１条及び第２条の条文である。下線部①～⑤について、正しいものを○、誤っているものを×としたとき、組み合わせとして正しいものを、下の１～５の中から一つ選びなさい。 24

> 第１条　学校保健安全法（昭和33年法律第56号。以下「法」という。）
>
> 　第５条の環境衛生検査は、他の法令に基づくもののほか、毎学年①一回、法第６条に規定する②学校環境衛生基準に基づき行わなければならない。
>
> ２　学校においては、③校長の求めがあるときは、臨時に、環境衛生検査を行うものとする。
>
> 第２条　学校においては、前条の環境衛生検査のほか、④日常的な点検を行い、⑤安全の確保又は改善を図らなければならない。

1	①	○	②	○	③	○	④	×	⑤	×
2	①	×	②	○	③	×	④	○	⑤	×
3	①	×	②	○	③	×	④	○	⑤	○
4	①	○	②	×	③	○	④	×	⑤	×
5	①	○	②	×	③	○	④	×	⑤	○

問18　次の文章は、学校環境衛生管理マニュアル（平成30年度改訂版　文部科学省）の日常における環境衛生に係る学校環境衛生基準の飲料水の水質に関する記述の一部である。（　①　）～（　④　）にあてはまる語句の組み合わせとして正しいものを、下の１～５の中から一つ選びなさい。 25

> （ア）　給水栓水については、遊離残留塩素が（　①　）mg/L 以上保持されていること。
>
> 　ただし、水源が（　②　）によって著しく汚染されるおそれのある場合には、遊離残留塩素が（　③　）mg/L 以上保持されていること。
>
> （イ）　給水栓水については、（　④　）、臭気、味等に異常がないこと。

1	①	0.1	②	病原生物	③	0.2	④	外観
2	①	0.1	②	動物の排泄物	③	1.0	④	外観
3	①	0.4	②	病原生物	③	1.0	④	外観
4	①	0.4	②	動物の排泄物	③	0.2	④	透明度
5	①	0.1	②	病原生物	③	1.0	④	透明度

問19　次の文章は、学校環境衛生管理マニュアル（平成30年度改訂版　文部科学省）の毎学年定期に行う騒音の検査方法に関する記述の一部である。下線部①～⑤について、正しいものを○、誤っているものを×としたとき、組み合わせとして正しいものを、下の１～５の中から一つ選びなさい。 26

> 普通教室に対する工作室、音楽室、廊下、①給食施設及び運動場等の校内騒音の影響並びに道路その他の②外部騒音の影響があるかどうかを調べ、騒音の影響の③小さい教室を選び、児童生徒等が④いる状態で、教室の窓側と廊下側で、窓を閉じたときと開けたときの等価騒音レベルを測定する。
>
> 等価騒音レベルの測定は、日本工業規格C1509に規定する積分・平均機能を備える普通騒音計を用い、A特性で⑤30分間、等価騒音レベルを測定する。

1	①	○	②	×	③	○	④	×	⑤ ×
2	①	×	②	○	③	×	④	○	⑤ ×
3	①	×	②	○	③	×	④	○	⑤ ○
4	①	○	②	×	③	○	④	×	⑤ ○
5	①	○	②	○	③	×	④	×	⑤ ×

問20　次の表は、学校環境衛生管理マニュアル（平成30年度改訂版　文部科学省）の水泳プールに係る学校環境衛生基準の一部を示したものである。表中の（　①　）～（　④　）にあてはまる語句の組み合わせとして正しいものを、下の１～５の中から一つ選びなさい。 27

検査項目	基　準
一般細菌	1mL中（　①　）コロニー以下であること。
pH値	（　②　）以上8.6以下であること。
濁度	（　③　）度以下であること。
有機物等 （過マンガン酸カリウム消費量）	（　④　）mg/L以下であること。

1	①	200	②	5.8	③	2	④	12
2	①	200	②	8.5	③	2	④	20
3	①	100	②	5.8	③	1	④	20
4	①	100	②	5.8	③	2	④	12
5	①	200	②	8.5	③	1	④	12

第６問　次の問１～問18の各問いに答えなさい。

問１　次の文章は、「『生きる力』を育む学校での歯・口の健康づくり　令和元年度改訂」（公益財団法人日本学校保健会）に示されている歯・口の清掃と指導のポイントについて述べたものである。**誤っているもの**を次の１～５の中から一つ選びなさい。 28

１　手指の機能の発達や器用さは子供により様々なので、歯ブラシの持ち方、握り方などは特に指示せず、自由に工夫させることが大切であるが、強く握り過ぎないように指導する。

２　画一的なみがき方では必ずどこかにみがき残しができてしまう。このみがき残しを、子供が自らの課題として捉え、解決のために工夫し、実践できるようにすることが、指導の目標となる。

３　歯間は、デンタルフロスの使用が推奨される。

４　よく歯垢を落とすためには、ゴシゴシと力を入れてみがくとよい。

５　歯みがきが上手にできているかどうかを調べる方法として、歯垢の染め出し検査がある。

問２　次の文章は、生命（いのち）の安全教育の推進に当たっての留意事項について述べたものである。（ア）～（オ）について、**誤っているもの**はいくつあるか。下の１～５の中から一つ選びなさい。 29

（ア） 授業後に、児童生徒が性暴力被害を受けた、受けていることを開示してきた場合の対応を事前に検討しておく。

（イ） 被害開示を受けた場合、複数の教員で「誰に何をされたか」を詳細に聞き取り、内容を確認するため、何度も同じ話を聞く。

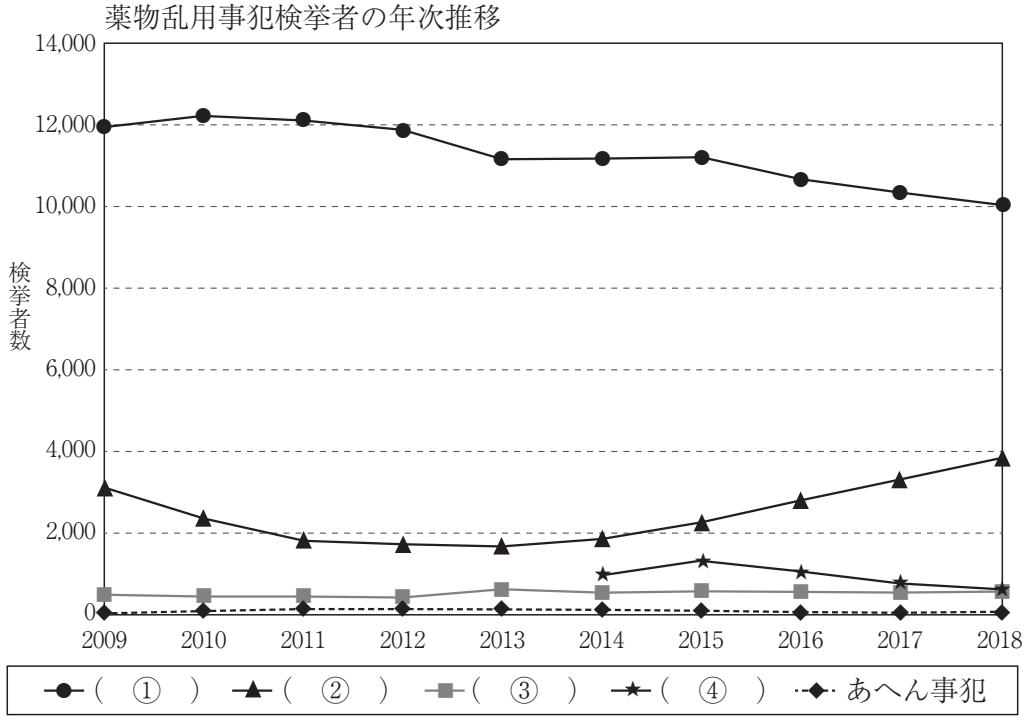
（ウ） 家庭で被害経験（性暴力被害のみならず、身体的虐待や心理的虐待、ネグレクトの被害を含む）がある児童生徒は、「自分の体も相手の体も大切」等の内容を理解、実践できない可能性がある。

（エ） 外国人児童生徒の挨拶の際の行動や、距離感等の考え方は、文化によって異なる場合がある。外国人児童生徒の文化的な背景に十分配慮し、外国人児童生徒の行動が他の児童生徒からの非難の対象となったり、外国人児童生徒の自尊感情を低下させたりするようなことがないようにする。

（オ） お便り等を通じて保護者に対して、事前に授業のねらいや内容について伝え、授業後もその様子を伝える。

１　なし
２　１つ
３　２つ
４　３つ
５　４つ

問３　次のグラフは、「喫煙、飲酒、薬物乱用防止に関する指導参考資料―令和２年度改訂―中学校編」（令和３年３月　公益財団法人 日本学校保健会）に示されている薬物乱用事犯検挙者の年次推移である。グラフ中の（　①　）～（　④　）にあてはまる語句の組み合わせとして正しいものを、下の１～５の中から一つ選びなさい。 30



１　①　覚醒剤事犯　　②　大麻事犯
　　③　麻薬及び向精神薬事犯　　④　危険ドラッグ
２　①　覚醒剤事犯　　②　危険ドラッグ
　　③　大麻事犯　　④　麻薬及び向精神薬事犯
３　①　危険ドラッグ　　②　麻薬及び向精神薬事犯
　　③　大麻事犯　　④　覚醒剤事犯
４　①　麻薬及び向精神薬事犯　　②　大麻事犯
　　③　危険ドラッグ　　④　覚醒剤事犯
５　①　大麻事犯　　②　覚醒剤事犯
　　③　麻薬及び向精神薬事犯　　④　危険ドラッグ

問４　次の文章は、厚生労働省が策定した「第五次薬物乱用防止五か年戦略」（平成30年８月）において示された、学校における薬物乱用防止教育及び啓発の充実に関する記述の一部である。下線部①～⑤について、正しいものを○、誤っているものを×としたとき、組み合わせとして正しいものを、下の１～５の中から一つ選びなさい。 31

（ア）　学校における薬物乱用防止教育は、小学校の体育科、中学校及び高等学校の保健体育科、①特別活動の時間はもとより、道徳、総合的な学習の時間等の学校の教育活動全体を通じて指導を行うこと。

（イ）　児童生徒が、薬物乱用の危険性・有害性のみならず、薬物乱用は、好奇心、投げやりな気持ち、過度のストレスなどの心理状態、②断りにくい人間関係、宣伝・広告や入手しやすさなどの社会環境などによって助長されること、また、それらに適切に対処する必要があることを理解できるようにするため、指導方法の工夫を行うこと。

（ウ）　薬物乱用防止教室は、学校保健計画に位置付け、すべての中学校及び高等学校において③年１回は開催するとともに、地域の実情に応じて小学校においても開催に努めること。

（エ）　薬物等に関する専門知識を有する④警察職員、麻薬取締官、⑤学校医、矯正施設職員、保健所職員、税関職員等と連携し、学校等における薬物乱用防止教室の充実強化を図ること。

1	①	○	②	×	③	○	④	○	⑤	×
2	①	×	②	○	③	○	④	○	⑤	○
3	①	○	②	○	③	×	④	×	⑤	×
4	①	×	②	×	③	○	④	○	⑤	○
5	①	○	②	○	③	○	④	○	⑤	×

問５　次の文章は、「改訂『生きる力』を育む小学校保健教育の手引」（平成31年３月文部科学省）及び「改訂『生きる力』を育む中学校保健教育の手引」（令和２年３月　文部科学省）に示されている心身の発育・発達等の特性について述べたものである。（ア）～（オ）について、**誤っているもの**はいくつあるか。下の１～５の中から一つ選びなさい。 32

（ア）　小学校低学年では、児童自らが健康課題に気付いたり、その課題を解決しようとしたりすることは難しく、基本的な生活習慣の確立に向けて、学校にあっては教師を、家庭にあっては保護者を手本として行動を模倣する時期である。

（イ）　小学校中学年では、生活行動の拡大により低学年で身に付いた生活習慣が崩れたり、自らの問題点を発見しようとする姿勢や望ましい解決方法についてもあいまいであったりして、頭でわかっていても実践行動に結び付かない場合も多い。

（ウ）　小学校高学年では、幼児期からの自己中心型から離脱し、自・他あるいは個・集団を理解して判断力も高まり、主体的な生活が可能になってくる。この時期は基本的生活習慣をさらに意識化し、確立させる段階と言える。

（エ）　中学生の行動変容は、小学生と比較すると、成人に対するような科学的あるいは感情的な背景を必要とすることが多く、規則などでの管理的側面や一方的な知識の導入だけでは効果が少ないと一般的に言われている。

（オ）　中学生は、身体的にも抵抗力が向上してくることから健康を意識する場面が少なく、健康行動よりも、単に外面的な美しさを求めるような行動様式を取ることもある。生活面においても、生活範囲の拡大や課外活動等への参加に伴う生活時間の変化や夜型の生活になりがちになるなど生活習慣に大きな変化が見られる。

１　なし
２　１つ
３　２つ
４　３つ
５　４つ

問６　次の文章は、「学校保健の課題とその対応―養護教諭の職務等に関する調査結果から―令和２年度改訂」（令和３年３月　公益財団法人 日本学校保健会）に示されている健康相談の目的と重要性について述べたものである。（　①　）～（　⑤　）にあてはまる語句の組み合わせとして正しいものを、下の１～５から一つ選びなさい。なお、同じ番号の（　　）には同じ語句が入る。 33

> 健康相談と（　①　）は明確に切り分けられるものではなく、相互に関連して展開されるものであるが、学校における健康相談の目的は、児童生徒等の（　②　）に関する問題について、児童生徒等や保護者に対して、関係者が連携し相談等を通して問題の解決を図り、（　③　）によりよく（　④　）していけるように支援していくことである。
>
> 健康相談は、児童生徒等の発達に即して（　②　）課題を解決する過程において、自分自身で解決しようとする（　⑤　）につながることから、健康の保持増進だけではなく教育的な意義も大きく、学校教育において重要な役割を担っている。

１　①　保健指導　②　学習・進路　③　学校生活　④　適応
　　⑤　人間的な成長
２　①　学校保健委員会　②　学習・進路　③　学校生活　④　移行
　　⑤　ピアサポートの充実
３　①　学校保健委員会　②　心身の健康　③　社会生活　④　移行
　　⑤　ピアサポートの充実
４　①　保健指導　②　心身の健康　③　学校生活　④　適応
　　⑤　人間的な成長
５　①　保健指導　②　学習・進路　③　社会生活　④　移行
　　⑤　ピアサポートの充実

問７　次の各文章は、「教職員のための子供の健康相談及び保健指導の手引―令和３年度改訂―」（令和４年３月　公益財団法人 日本学校保健会）に示されている相談に当たっての基礎事項について述べたものである。**誤っているもの**を次の１～５の中から一つ選びなさい。 34

１　相談は、児童生徒や保護者が話しやすく受容的で温かい雰囲気づくりに努める。対面する座り方のほか、斜めあるいは90度に座ると緊張感が和らぐ。横並びに座るのは、児童生徒と一緒に作業をしながらの会話に適している。

２　相談時間は一般的に50分を上限とし、いたずらに長時間にならないよう心がけることが基本であるが、児童生徒の状況に合わせて柔軟に対応する。すぐに相談できないときは、約束するなどにより話を聴く機会を保証しておくことが重要である。

３　相談における基本的姿勢は、相談者の気持ちを受け止め、相手の話をよく聴こうとすることである。原則として、できる限り先入観にとらわれないようにし、相談者の立場に立って話を聞く姿勢に心がける。

４　相談者の説明や気持ちを確認しながら話を進める。（例えば、「そのとき……という気持ちだったのですね」、「……と理解しましたがそれでよいですか」）

５　児童生徒の特性、問題の状況、精神疾患の可能性などに応じて、相談者の話を受容的に聞くだけとし、情報収集のための質問をしたり、教員の意見や助言をしたりすることは控える。

問８　次の各文章は、「生徒指導提要」（令和４年12月　文部科学省）に示されている自傷への対応について述べたものである。**誤っているもの**を次の１～５の中から一つ選びなさい。 35

１　自傷とは、手首などにカッターナイフやカミソリで傷をつける、ドライヤーやライターで髪の毛や皮膚を焼く、身体を机や壁に打ち付けるなど、自分の身体を故意に損傷する行動をいう。

２　明確な自殺の意図があると思われる場合、たとえ現在の傷が軽いものであっても軽視してはならない。

３　自傷を認知した場合、まず身体的な損傷そのものへの対応が必要になる。養護教諭による手当から病院受診、救急搬送まで多様な水準の対応が含まれ、救急性がないと判断された場合、保健室へ誘導しての対応になるのが一般的である。

４　手当の過程において、自傷の方法を尋ねたり、自傷に至ったきっかけ（直近の誘発したできごと）について聞いたりしながら、場合によれば、自殺の意図を把握することも必要になる。その際、静かで穏やかに対応する。

５　自殺する意図がないにもかかわらず、自傷を反復する場合、周囲の注目や同情を引こうとしている可能性が考えられ、あえて無視をするのがよい。

問９　次の文章は、起立性調節障害について述べたものである。（　①　）～（　⑤　）にあてはまる語句の組み合わせとして正しいものを、下の１～５の中から一つ選びなさい。 36

（ア）　起立性調節障害は、（　①　）の働きの不調のため、起立時に身体や脳への血流が低下する病気である。

（イ）　軽症例を含めると小学生の約５％、中学生の約10％に存在する。性差は、男子より女子が（　②　）。長期欠席状態の子どもの約（　③　）割が起立性調節障害を併発するといわれている。

（ウ）　起立性調節障害の身体症状項目としては、立ちくらみ、入浴時あるいは嫌なことがあると気持ちが悪くなる、少し動くと動悸や息切れがする、食欲不振等がある。乗り物に酔いやすいという症状は、この身体症状項目としては（　④　）。

（エ）　すべての場面において、（　⑤　）した状態の起立保持を続けないようにする。

１　①　自律神経　②　多い　③　３～４　④　当てはまらない　⑤　足を交差
２　①　自律神経　②　少ない　③　５～６　④　当てはまる　⑤　静止
３　①　下垂体　②　多い　③　５～６　④　当てはまらない　⑤　静止
４　①　下垂体　②　少ない　③　３～４　④　当てはまる　⑤　足を交差
５　①　自律神経　②　多い　③　３～４　④　当てはまる　⑤　静止

問10　次の文章は、児童虐待の防止等に関する法律第５条の条文である。下線部①～⑤について、正しいものを○、誤っているものを×としたとき、組み合わせとして正しいものを、下の１～５の中から一つ選びなさい。 37

第５条　学校、児童福祉施設、病院、都道府県警察、婦人相談所、教育委員会、配偶者暴力相談支援センターその他児童の福祉に業務上関係のある団体及び学校の教職員、児童福祉施設の職員、医師、歯科医師、①保育士、助産師、看護師、弁護士、警察官、婦人相談員その他児童の福祉に職務上関係のある者は、児童虐待を②通告しやすい立場にあることを自覚し、児童虐待の早期発見に努めなければならない。

２　前項に規定する者は、児童虐待の予防その他の児童虐待の防止並びに児童虐待を受けた児童の保護及び③自立の支援に関する国及び地方公共団体の施策に協力するよう努めなければならない。

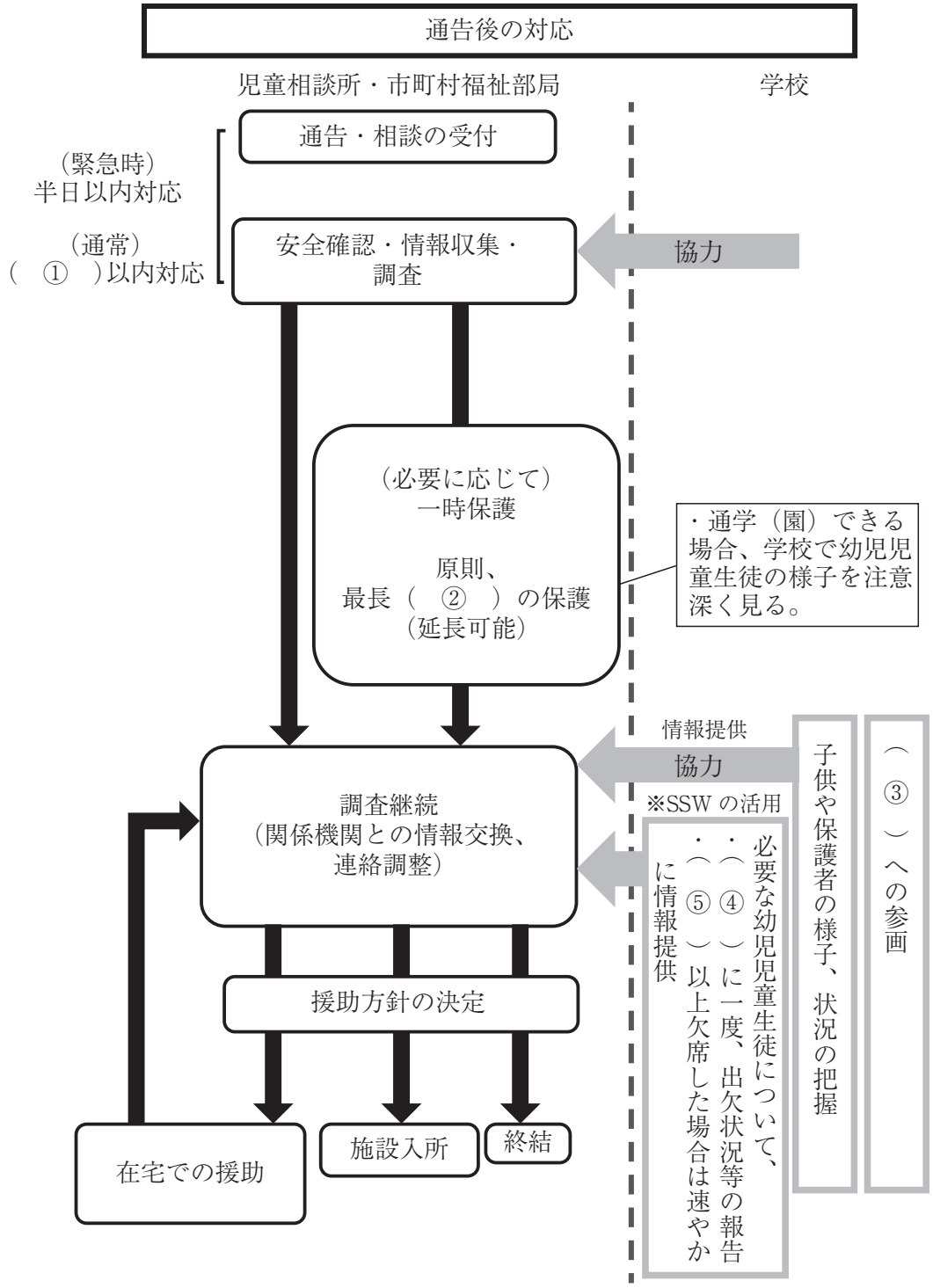
３　第一項に規定する者は、正当な理由がなく、その職務に関して知り得た児童虐待を受けたと思われる児童に関する秘密を漏らしてはならない。

４　前項の規定その他の守秘義務に関する法律の規定は、第二項の規定による国及び地方公共団体の施策に協力するように努める義務の遵守を妨げるものと④解釈しなければならない。

５　学校及び児童福祉施設は、児童及び保護者に対して、児童虐待の防止のための⑤教育又は啓発に努めなければならない。

1	①	×	②	×	③	○	④	×	⑤	○
2	①	○	②	×	③	○	④	○	⑤	○
3	①	×	②	○	③	○	④	○	⑤	×
4	①	○	②	○	③	×	④	○	⑤	○
5	①	×	②	×	③	○	④	×	⑤	×

問11　次の図は、「学校・教育委員会等向け虐待対応の手引き」（令和２年６月改訂版 文部科学省）に示されている通告後の対応を示したものである。図中の（　①　）～（　⑤　）にあてはまる語句の組み合わせとして正しいものを、下の１～５の中から一つ選びなさい。 38



1　①　48時間　　②　１か月　　③　学校運営協議会
　　④　１か月　　⑤　３日
2　①　24時間　　②　２か月　　③　要保護児童対策地域協議会
　　④　１学期　　⑤　３日
3　①　24時間　　②　１か月　　③　学校運営協議会
　　④　１か月　　⑤　３日
4　①　48時間　　②　２か月　　③　要保護児童対策地域協議会
　　④　１か月　　⑤　７日
5　①　24時間　　②　２か月　　③　要保護児童対策地域協議会
　　④　１学期　　⑤　７日

問12　次の各文章は、「学校保健の課題とその対応―養護教諭の職務等に関する調査結果から―令和２年度改訂」（令和３年３月　公益財団法人 日本学校保健会）に示されている保健室経営計画の必要性について述べたものである。**誤っているもの**を、下の１～５の中から一つ選びなさい。 39

1　学校教育目標や学校保健目標等に基づく保健室経営を計画的、組織的に進めることができる。
2　児童生徒等の健康課題等を踏まえた保健室経営計画を立てることによって、健康課題を教職員等で共有できる。また保健室経営計画を教職員や保護者等に周知をすることによって、理解（養護教諭の職務や役割等）や協力が得られ、効果的な連携ができる。
3　保健室経営計画の自己評価及び他者評価を行うことにより、課題が明確になり改善点を異動先の学校における保健室経営に生かすことができる。
4　養護教諭が複数配置の場合には、お互いの活動内容の理解を深めることができ、効果的な連携ができる（計画は一つ）。
5　異動による引き継ぎが、円滑に行われる。

問13　次の表は、「保健室経営計画作成の手引　平成26年度改訂版」（公益財団法人 日本学校保健会）に示されている保健室経営計画の作成について示したものである。表中の（　①　）～（　⑤　）にあてはまる語句の組み合わせとして正しいものを、下の１～５から一つ選びなさい。なお、同じ番号の（　　）には同じ語句が入る。 40

	学校保健計画	保健室経営計画
推進者	（　①　）	（　④　）が中心
特　徴	・「保健教育」「保健管理」「組織活動」の３領域について立てる総合的な基本計画 ・（　②　）計画 ・（　③　）の評価に位置づけ、評価を実施	・教育目標等を踏まえた上で、（　⑤　）の目標に対して、計画的、組織的に運営するための計画 ・養護教諭の職務（役割）と保健室の機能を踏まえた計画 ・（　②　）計画 ・（　⑤　）目標に対する評価を実施

1　①　保健主事　②　３か年　③　学校経営　④　養護教諭　⑤　学校保健
2　①　全教職員　②　単年度　③　学校経営　④　養護教諭　⑤　保健室経営
3　①　全教職員　②　３か年　③　学級経営　④　保健主事　⑤　学校保健
4　①　全教職員　②　３か年　③　学級経営　④　保健主事　⑤　保健室経営
5　①　保健主事　②　単年度　③　学校経営　④　養護教諭　⑤　学校保健

問14　次の文章は、「保健室経営計画作成の手引　平成26年度改訂版」（公益財団法人日本学校保健会）に示されている養護教諭に求められている役割について述べたものである。下線部①～⑤について、**誤っているもの**を、下の１～５の中から一つ選びなさい。 41

（ア）　学校内及び地域の①医療機関等との連携を推進する上で②コーディネーターの役割

（イ）　養護教諭を中心として関係教職員等と連携した③組織的な健康相談、保健指導、健康観察の充実

（ウ）　学校保健センター的役割を果たしている保健室経営の充実（保健室経営計画の作成）

（エ）　いじめや児童虐待など子供の心身の健康問題の早期発見、早期対応

（オ）　学級（ホームルーム）活動における保健指導をはじめ、TTや兼職発令による保健学習などへの積極的な授業参画

（カ）　健康・安全に関わる危機管理への対応
救急処置、④心のケア、アレルギー疾患、⑤感染症発生時の出席停止の指示

1　①
2　②
3　③
4　④
5　⑤

問15　次の文章は、学校保健安全法の条文の一部である。下線部①～⑤について、正しいものを○、誤っているものを×としたとき、組み合わせとして正しいものを、下の１～５の中から一つ選びなさい。 42

第７条　学校には、健康診断、健康相談、保健指導、救急処置その他の保健に関する措置を行うため、①養護教諭を置くものとする。

第８条　②学校においては、児童生徒等の心身の健康に関し、健康相談を行うものとする。

第10条　学校においては、③救急処置、健康相談又は保健指導を行うに当たつては、必要に応じ、当該学校の所在する地域の医療機関その他の関係機関との連携を図るよう努めるものとする。

第29条（略）
２　（略）
３　学校においては、事故等により児童生徒等に危害が生じた場合において、当該児童生徒等及び当該事故等により④身体的外傷その他の心身の健康に対する影響を受けた児童生徒等その他の関係者の心身の健康を回復させるため、これらの者に対して⑤必要な経費を援助するものとする。

1	①	○	②	○	③	×	④	○	⑤	×
2	①	○	②	×	③	○	④	○	⑤	○
3	①	×	②	○	③	○	④	×	⑤	×
4	①	×	②	×	③	○	④	×	⑤	○
5	①	×	②	○	③	×	④	×	⑤	×

問16　次の文章は、「教職員のための子供の健康相談及び保健指導の手引―令和３年度改訂―」（令和４年３月　公益財団法人 日本学校保健会）に示されている保健室登校の実施に当たっての確認事項及び指導のポイントについて述べたものである。下線部①～⑤について、正しいものを○、誤っているものを×としたとき、組み合わせとして正しいものを、下の１～５の中から一つ選びなさい。 43

〈確認事項〉
ア　①本人が保健室登校を望んでいるか。
イ　②保護者が保健室登校を理解しており、協力が得られるか。
ウ　全教職員（校長、学級担任、学年主任等）の共通理解及び協力が得られるか。
エ　保健室登校に対応できる校内体制が整っているか。
オ　③保健室経営計画が立てられているか。

〈指導のポイント〉
ア　全職員が保健室登校は養護教諭と学級担任だけに任せるものではなく、校内組織の中で取り組んでいく問題であるという共通認識を持つこと。
イ　保健室にいることで④安全感を得られるようにするとともに、児童生徒との信頼関係を深めることが大切である。
ウ　③保健室経営計画を立て、学級担任は毎日保健室へ来て言葉をかける、教科担当は教科指導に当たるなど、役割分担を行って対応する。
エ　⑤長期化することは望ましくないので、その場合には指導方法の再検討が必要となることを、保護者や関係教職員が十分認識しておく必要がある。

1	①	○	②	○	③	○	④	×	⑤	○
2	①	○	②	×	③	○	④	○	⑤	○
3	①	○	②	○	③	×	④	○	⑤	○
4	①	×	②	○	③	×	④	×	⑤	×
5	①	×	②	×	③	○	④	○	⑤	×

問17　次の文章は、「保健主事のための実務ハンドブック―令和２年度改訂―」（令和３年３月　公益財団法人 日本学校保健会）に示されている学校保健委員会の企画・運営について述べたものである。（　①　）～（　⑤　）にあてはまる語句の組み合わせとして正しいものを、下の１～５の中から一つ選びなさい。なお、同じ番号の（　　）には同じ語句が入る。 44

（ア）　学校保健委員会は学校と家庭・地域を結ぶ機会であり、（　①　）が中心となり企画・運営することが重要である。
（イ）　学校保健委員会の企画に当たっては、（　②　）選びが重要になる。課題解決の方向性が出るような（　②　）にすることが大切である。
（ウ）　委員会の日時や場所、ねらい、参集者、事前の準備、議事の展開等が盛り込まれた運営案を作成し、（　③　）に開催できるように準備する。
（エ）　当日の運営は、学校と家庭の（　④　）を明確にする、実践の手立てが具体的にイメージできる（　②　）にする、課題解決に効果的に働く組織と運営に配慮する、委員会で協議された事項は、（　⑤　）に移すようにする。

1	①	養護教諭	②	議題	③	効率的	④	役割	⑤	改善
2	①	保健主事	②	議題	③	計画的	④	役割	⑤	実践
3	①	養護教諭	②	委員	③	計画的	④	実態	⑤	実践
4	①	保健主事	②	委員	③	効率的	④	実態	⑤	改善
5	①	養護教諭	②	委員	③	計画的	④	役割	⑤	改善

問18　次の文章は、学校保健安全法施行規則第22条の条文である。下線部①～⑤について、**誤っているもの**はいくつあるか。下の１～５の中から一つ選びなさい。

45

第22条　学校医の職務執行の準則は、次の各号に掲げるとおりとする。

一　①学校保健計画及び学校安全計画の立案に参与すること。

二　学校の環境衛生の維持及び改善に関し、②保健主事と協力して、必要な指導及び助言を行うこと。

三　法第８条の健康相談に従事すること。

四　法第９条の保健指導に従事すること。

五　法第13条の健康診断に従事すること。

六　法第14条の疾病の予防処置に従事すること。

七　法第２章第４節の感染症の予防に関し必要な指導及び助言を行い、並びに学校における感染症及び食中毒の予防処置に従事すること。

八　校長の求めにより、③健康観察に従事すること。

九　市町村の教育委員会又は学校の設置者の求めにより、法第11条の健康診断又は法第15条第一項の健康診断に従事すること。

十　前各号に掲げるもののほか、必要に応じ、学校における④保健教育に関する専門的事項に関する指導に従事すること。

２　学校医は、前項の職務に従事したときは、その状況の概要を⑤学校医執務記録簿に記入して校長に提出するものとする。

１　なし
２　１つ
３　２つ
４　３つ
５　４つ

養護教諭　正答・配点一覧表

問番号（全 45 問）	正答	配点
第 1 問　(1)	3	4
第 2 問　(2)	2	4
第 3 問　問 1　(3)	4	4
問 2　(4)	2	4
問 3　(5)	5	4
第 4 問　問 1　(6)	3	4
問 2　(7)	1	4
第 5 問　問 1　(8)	3	4
問 2　(9)	2	4
問 3　(10)	4	4
問 4　(11)	1	4
問 5　(12)	2	4
問 6　(13)	3	4
問 7　(14)	5	4
問 8　(15)	1	4
問 9　(16)	1	4
問 10　(17)	3	4
問 11　(18)	1	4
問 12　(19)	1	4
問 13　(20)	4	4
問 14　(21)	3	4
問 15　(22)	5	4
問 16　(23)	3	4
問 17　(24)	2	4
問 18　(25)	1	4
問 19　(26)	5	4
問 20　(27)	1	4
第 6 問　問 1　(28)	4	4
問 2　(29)	2	4
問 3　(30)	1	4
問 4　(31)	5	4
問 5　(32)	1	4

問 6　(33)	4	4
問 7　(34)	5	4
問 8　(35)	5	4
問 9　(36)	5	4
問 10　(37)	1	4
問 11　(38)	4	4
問 12　(39)	3	4
問 13　(40)	2	4
問 14　(41)	5	4
問 15　(42)	3	4
問 16　(43)	3	4
問 17　(44)	2	4
問 18　(45)	4	4

計 180 点